

夏の企画展

（戦傷病者を還送した船）

病院船



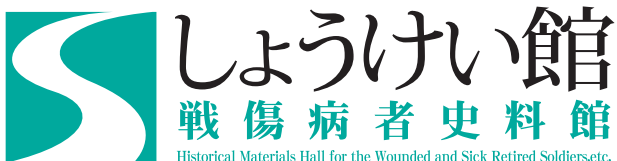
令和元年 (2019) **7.17** [水] ▶ **9.8** [日]

開館時間 ▶ 10時～17時30分 (入館は17時まで)

会場 ▶ しょうけい館1階展示室

休館日 ▶ 毎週月曜日・8/13 (8/12(月)は開館)

病院船「氷川丸」(画:上田毅八郎)



しょうけい館
戦傷病者史料館
Historical Materials Hall for the Wounded and Sick Retired Soldiers, etc.

入場無料

〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-13 ツカキスクエア九段下
TEL:03-3234-7821 FAX:03-3234-7826

協力:日本郵船氷川丸、日本郵船歴史博物館、横浜みなと博物館

www.shokeikan.go.jp

夏の企画展

病院船

戦傷病者を還送した船

病院船は、戦時において発生する傷病者または海難者を国籍に関係なく救助、治療することを目的とした船舶でした。

日本では、初の対外戦争となった日清戦争以降、有事に際して陸海軍が民間商船を徴用し、整備・運用してきました。日中戦争からアジア・太平洋戦争期に至ると、病院船は中国大陸から太平洋諸地域に行動範囲を広げ、傷病兵の搬送、医薬品の輸送、派遣先での防疫などさまざまな任務に従事しました。終戦後、残された病院船は復員船として活動し、多くの在外邦人の復員輸送に貢献したのです。

本展では、資料をもとに病院船の活動の実態を紹介するとともに、病院船で搬送された戦傷病者にまつわる資料、証言をもとに病院船とはどのような存在であったのかについて考えます。

入場無料

関連イベント

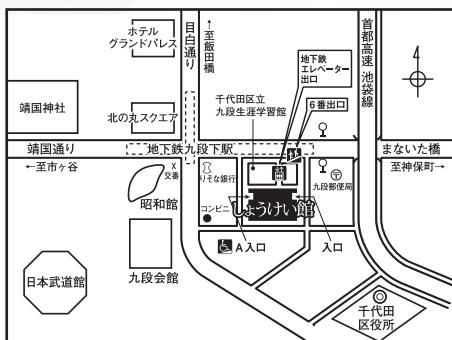
証言映像上映

内容：病院船の乗船経験者や関連映像を紹介
 日時：毎日 10:00～17:00 場所：1階証言映像シアター
 その他：鑑賞自由・無料

証言者	証言映像タイトル
後藤 誠次	海軍看護兵 若き日の記憶
上田 毅八郎	がむしゃらに生きて、描く
横田 肇	生かされた人生への感謝
近田 満子	家族の絆で支え合う
後藤 隆雄	再起奉公 痛みと葛藤を超えて
坂口 守義	闘い続けた半生
山田 薫	軍旗の下で・・・体と心の受傷
野上 行三	障害を超えたおおらかさ
長沼 元	ミッドウェー海戦で負傷して
筒井 政利	癒されない心 「死んだ方がまし」と思った青春
佐藤 東三郎	無いものは無い、それでもやるほかない…
田中 照美	心の痛みと共に～飛行班の思い～
西田 明	戦場体験が生んだわだかまり
佐藤 義治	二人三脚、商売繁盛
磯部 武	終戦から始まった30年の闘い～銃創と結核～
小早川 宗	今日あることに感謝 明日があればさらによし
記録映画	
日本映画社 (海軍省監修/昭和18年)	海軍病院船

フロアレクチャー

内容：学芸員による企画展の展示解説
 日時：7/28(日)・8/4(日)・8/25(日) 14:00～14:30
 場所：1階企画展示室 その他：当日参加自由・無料



- 地下鉄をご利用の場合
「九段下」駅6番出口から徒歩1分(東西線、半蔵門線、都営新宿線)
- 都営バスをご利用の場合
「九段下」停留所から徒歩1分(高71系統(九段下～高田馬場駅))
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。
※車椅子で来館される場合は館のA入口をご利用ください。

2019年7月17日(水)～9月8日(日)

会場：1階企画展示室
 開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)
 休館日：毎週月曜日・8/13(8/12(月)は開館)

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年3月に開館しました。

しょうけい館という館名は、戦傷病者とそのご家族の労苦を知り、語り継ぐという趣旨から、受け継ぎ、語り継ぐという意味の「承継」という言葉からとっています。

